

会議の名称	第27回柏原市子ども・子育て会議
会議の開催日時	令和7年2月13日(木) 14時00分～16時00分
会議の開催場所	柏原市役所 4階 大会議室
事務局(担当課)	福祉こども子育て支援課 こども施設課 こども家庭安心課 指導課
出席委員	谷向みつえ、小松孝至、小桜直樹、田中昌之、西育代、西村龍夫、藤井謙昌(敬称略)
会議の議題	1. 開会 2. 会長あいさつ 3. 案件 (1) パブリックコメント実施結果について (2) 第3期柏原市子ども・子育て支援事業計画最終案について (3) その他 4. 閉会
配布資料	・次第 ・資料1 柏原市子ども・子育て会議委員名簿 ・資料2 パブリックコメント実施結果 ・資料3 第3期柏原市子ども・子育て支援事業計画最終案
審議の内容等	以下の通り

事務局	それでは、定刻となりましたので、第27回柏原市子ども・子育て会議を始めさせていただきます。 委員の皆さまにおかれましては、ご多忙のところ、ご出席賜り誠にありがとうございます。 まず始めに委員の異動がありましたので、ご紹介させていただきます。柏原市労働組合協議会代表として出席いただいております、楠委員が役員改選により交代され、今会議から同協議会代表として小桜直樹委員にお願いしております。 なお、本日、進藤委員及び神谷委員のお二人から欠席の旨、ご連絡いただいております。 ここで、会議の成立をご報告いたします。委員数9名のうち、本日もご出席いただいております委員は7名です。よって、柏原市子ども・子育て会議条例第4条第2項の規定により、過半数以上のご出席をいただいておりますので、本会議が成立しておりますことをご報告いたします。 続いて、配布資料の確認をさせていただきます。事前にお送りしております資料は、本日もご持参いただいておりますでしょうか。もし、お手元がない方がおられましたら挙手をお願いいたします。 それでは、中身の確認をさせていただきます。一つ目が本日の会議の次第でございます。続いて資料1としまして、柏原市子ども・子育て会議委員名簿でございます。続きまして、パブリックコメント実施結果でございます。それから、第3期柏原市子ども・子育て支援事業計画最終案となっております。あと本日、当日配布といたしまして、机上に置かせていただいております資料となっております。以上でございます。 ここからは、柏原市子ども・子育て会議条例第4条第1項の規定により、会長に議長をお願いしたいと思います。 それでは会長、よろしくお願いいたします。
谷向会長	本日もお寒い中、ご参集いただきましてありがとうございます。 第3期柏原市子ども・子育て支援事業計画ということで、これからの5年間を見通した、柏原市の子ども・子育てに関する計画について、今日は皆さん方にご意見をいただきたいと思いますので、よろしくお願いいたします。 先に案件に入る前に、傍聴人はいらっしゃいますでしょうか。
事務局	おられません。
谷向会長	それでは次第に沿って進めて参ります。まず、パブリックコメントの

	実施結果について、お願いします。
事務局	着座にて失礼いたします。 委員の皆さまにご審議いただいた、第3期子ども・子育て支援事業計画(案)について、令和7年1月6日から同月27日までパブリックコメントを実施し、お二人の方からメールでご意見をいただきました。お配りしております公表用資料にまとめております。いただいた意見をそのまま掲載しますと相当長文になりますし、個人が特定される懸念もありますので、簡潔にまとめております。 お一人目のご意見が意見内容 NO.1、NO.2以降がお二人目のご意見でございます。 お一人目は、ロボットプログラミングの教室を運営されておられる方で、こども未来プランに何か貢献させてもらえるのでは、ということでご意見をいただいております。意見内容は、こどもたちが自ら考え、未来を切り拓く力を身につけるために「探求」「コミュニケーション」「キャリア」といったテーマで教育プログラムを提供していること、そのほか自分たちが開催したイベントやワークショップの紹介を記載されており、そういった活動が柏原市でも展開できると考えていますとのこと。計画に対するパブリックコメントであり、このようなご提案に対して何かの事業を依頼するとかしないとかを答えるものではないので、記載のように市の考え方を回答させていただいております。 お二人目は、他市から柏原市に転入してこられた方で、主に前居住地と柏原市を比較して意見を述べられています。 1つ目が一般不妊治療への助成金補助制度をつくってほしいというものです。大阪市、豊中市、京都府、奈良市、生駒市などで実施されていることを挙げ、厚労省の調査などから望む方が多くおられることをうたえておられます。 2つ目が産後ケア事業の実績がまだまだ少ないので、事業の見直しをしてほしいとのことです。奈良市の例を挙げ、利用料の減額、助産施設の選択肢の増、アウトリーチなど新たな産後ケア方法を考案することなどをご提案いただいております。 3つ目が子育て支援センターの数が少ないこと、利用日時が限られていることなどを指摘され、奈良市の実情などを例に子育て支援センターの増設を望まれています。 4つ目が子育て支援センターのスケジュールやイベントをホームページで見ようと思ってもわかりにくい、また、最新情報にアップロードされていないというご指摘です。

	5つ目が柏原市は駅周辺に住宅がまとまっており、車がなくても暮らすことができるのはいいと思うが、歩行者と車の距離が近く、危険な道路が多いので、子どもたちが安全に暮らすことができるよう、道路整備をしてほしいというものです。 6つ目としまして、子どもを持つ家庭は経済を回すのだから、中長期的な経済発展の点からも子育て支援に最大限注力し、子育てしやすい街をアピールして、柏原市の子ども的人口を増やすようにしてほしい、なにわ筋線が開通すれば梅田までの通勤が便利になるはずだから、このチャンスに子育て世帯の転入の増加につなげてほしいとのことです。 いただいたご意見のうち、子育て支援センターのホームページ記事につきましては、改善を図る旨を、新たな施策の実施や施策の見直しにかかるものにつきましては、実施していくかどうか、どのような見直しが必要かなどを含め、検討していく考えを示しております。 なお、頂戴しました意見は、計画案の文言等について、加筆修正を求めるようなものではないため、パブリックコメントによる計画案の修正はいたしません。以上です。
谷向会長	ありがとうございました。それでは、事務局のご説明を聞いて、ご質問やご意見はございますでしょうか。
小松副会長	産後ケアのことなんですけども、前に私も会議で発言したことがあると思うんですけど、限られた資源の中でと書いてあるんですけど、これは、どんな意味なのか、つまりお金という意味なのか、人という意味なのか、それ以外の何かなのか。ここの資源という表現は、具体的にどんなことで書かれてるのかについていいですか。
事務局	こちらに書かせていただいております資源というのは、産後ケアを実施していただいている場所のことを示しています。産後ケアを実施していただくには、助産師、看護師、保健師等がおられるというところと、宿泊型とかになりますと、宿泊施設で食事の提供が必要であったりとか、一対一であったりとか、産後のしんどい方の子育て、お母さんの体調管理等も必要になってきますので、なかなか実施していただく施設というのが難しく、今現在も柏原市が契約しているところが、大阪府の助産師会であったりとか、母子医療センターであったりとか、今、にしむら小児科さんのほうでも、デイを取っていただいたりというところで、少しずつ出産施設のほうとかでは広がっていったんですけど、なかなか思うタイミングで、市民の方のニーズと受け入れのタイミング、空いてるかどうかというところで、難しいところがあるかなというところで

	す。
小松副会長	柏原市内の方じゃなきゃいけないというわけではないんですよね。柏原近辺の自治体の施設であるとか、お住まいの助産師さんでもいいのですか。
事務局	柏原市で今現在契約しているところでの利用で助成制度は受けられるということになっています。あとは今現在、大阪府内どこでも受けられるとか、そういった形にはなっていないのが現状です。
小松副会長	ちょっと県が違うのであれだと思うんですけど、個人的なところだと、割と近隣の市町も含めて、手配という言葉が悪いんですけど、つなげていただけるようなところもあります。結構ご意見もありますけども、私も実際自分の家庭で利用したこともあります。使いやすいものを引き続きよろしく願いいたします。
西村委員	産後ケアですけれども、結局それ専用に使ってるわけじゃないんです。うちでも、看護師さんと保育士さんつけて、連絡あったらそれで預かるということなんですけど、他の仕事を普通はしているわけです。だからそれをやめて、そっちには迷惑をかけるけど、産後ケアを受け入れている、そんな状況です。でも、どこもそうだと思いますよ。今の条件だったら、産後ケア専門施設なんてありえないですからね。将来的にはそんなことをしたほうがいいのかもしれませんが、今現状はそんな感じですよ。やってくれるところをもう少し探してもいいのかなと思います。うちも週2回ぐらい預かっている感じです。それでも月8回ぐらいですかね。それが大体限界です。 あともっと言わせてもらうなら、1件預かったら赤字なんです、はっきり言って。だって看護師さんと保育士さんが1日ついて、人件費いくらになりますか。あのお金で絶対出ませんよ。もらってるのに比べたら、毎回赤字だとなうちの担当と話しています。
小松副会長	どこまでお話ししていいかはわからないんですけど、私がお世話になったところは、個人でやっておられる助産師さんで、いろんな条件的にある種、すごく強い熱意でやっておられて、いつ電話してきてもいいみたいな感じでされています。大阪府内じゃないんですけども。だから先生がおっしゃるような、お金のバランスを考えると厳しいなと思うんですけども、いろんな方がおられて、いろんなところで実践されています。逆に言ったら、お金のことだけのバランスでやっていくと、なかなか引き受けていただけないんだろうなというのは、思います。
谷向会長	ご意見ありがとうございます。赤字でなくやる方法はあるんですか。
西村委員	クオリティを下げることです。うちだって1人しかつけなかったら、保

	育士一人分くらいの人件費は出るんですよ。でもそれだけでは無理でしょう。保育士と看護師と2人つけて、部屋 1 人分使ってずっとやっているわけです。そのくらいやらないと、一対一だったらなかなか話も進まないですし。やっぱり2人分の人件費が必要じゃないかなと思います。 先生のところは1人でやっておられたんですか。
小松副会長	1 人でベテランの助産師さんが助産院を開業されているわけです。お産をされる人がいたら受け入れないと思うんですけど、そんなにしょっちゅうあるわけではないので。そこにお世話になって、車に乗って行かなければいけないところなんです、行って割とのんびりさせてもらえる感じのところですよ。
西村委員	個人の情熱でやっておられるのですね。
小松副会長	そういう側面はすごく強いだろうと思います。その代わりいろいろな人がかかわってくるので、ある種のコミュニティがその人を中心にできているところなんです。そこに続けていく方もいるし、子どもがある程度以上大きくなったら、人数はそんなにいらなくなります。こんなにやって大丈夫ですか、もつんですかとその助産師さんに聞いたら、みんな卒業していくから大丈夫というふうに、その人は言うておられました。ただ、先生がおっしゃるように、経済的にその方はうまく回せているんですかといったら、それは厳しいと思います。プラスアルファかなりベテランの方なので、ある種そういう経済的なことは考慮せずにやっていただいているのかなというふうには思いました。
西村委員	具体的に1件当たりいくらでしたか。覚えておられますか。
事務局	日帰りの分で25,000 円かそれくらいだったと思います。
西村委員	看護師さんの時給が2,200 円くらいですね。保育士さんが1,400 円くらいです。それで計算してみてください。あとは送迎費用です。そんな感じなんです。
谷向会長	ありがとうございます。 ただ、時代がどんどん変わってきておられますので、おそらくこういうことは、昔は実家とか帰省してお里でとかいうようなところで機能していたんでしょうけれども、これからはおじいちゃん、おばあちゃんも頼れないような時代になっていきますでしょうし、そういう意味では、ニーズはどんどん増える可能性があるということを押さえておかないといけないかなということと、産後ケアのその時期こそ大切です。もちろん他の子育ての期間ずっと大切なんですけれども、産後ケアの時期はぜひ大切にしていきたいという時期でもあるかと思います。その辺、市のほうで

	ご理解はしていただければ、ありがたいことだと思います。 あわせて、私のほうから 1 つコメントなんですけれども、その上の不妊治療のほうも引き続き実施に向けて検討して参りますとありますけれども、引き続き、いつまで検討するかということをお聞きたいと思っています。 子どもの発達はものすごく早いんですけれども、女性の出産の適齢期というのも、すごく速いというか限られた期間ですので、行政のほうがつくり検討している間に、女性の一生の出産という選択が間に合わなくなってしまう方もいらっしゃると思うんです。引き続き検討していただくのは大変ありがたいんですけれども、常套句にならないような、いつぐらいまでかなというのをチラッと思いました。ご検討ください。
西村委員	不妊治療に関しては、保険適用になったのは2年前なんです。3割負担ですよ。前は何十万とものすごく高かったです。それに比べれば、随分ましになったと思うんですけど、3割負担でも5～60万かかるわけです。でも高額医療がありますね。確か6、7万までかな。それ以上はかからないということになってるわけです。 確か東京都は、不妊治療にお金を出すと言ってましたね。柏原市はどうですか。お金がない。市長はものすごく前向きに子育て支援するとか言ってましたけど、子育て支援する前に生まれる子だということは、ちらっとおいてほしいですね。
谷向会長	ありがとうございます。ぜひ市長のほうにご意見をお届けいただくことと思います。
小松副会長	その件では、生駒とか奈良とかいう市の名前が具体的に出ていたけど、中核市とか特例市とかそういうのが関係あるんですか。どの市でもやろうと思えばというか、お金があればできるんでしょうか。
事務局	医療費保険適用になる前が、府事業とか政令市の事業として、一般不妊治療についての助成制度をしておりました。それが一旦保険適用になって、終わられたところもありますし、大阪府のほうは一旦終わった形になります。そのまま一部医療助成を継続されているところもあるのかなというところで、特に政令市のほうとかは、そのまま残っているのかなというふうに思っております。
谷向会長	ありがとうございます。他にご意見やご質問等ございますでしょうか。 ないようでしたら、引き続き案件に移っていただきたいと思います。事務局から第3期柏原市子ども・子育て支援事業計画最終案について、ご説明をお願いいたします。

事務局	事務局のほうから、また着座にてご説明をさせていただきます。 最終案の冊子をご用意ください。前回会議後、書面にてご確認いただいたあと、事務局で修正を加えた部分について、ご説明させていただきます。 1つ目が目次の修正でございます。第8章に「2.支援施策の充実及び周知の強化」の項目を追加した際に、目次に反映できていなかったので、目次を修正させていただいております。 続いて60ページになります。第5章 NO.50「幼児教育・保育の無償化の実施」の内容に「保護者の経済的負担の軽減や利便性等を勘案しつつ、給付方法について検討します。」という文言を追加しました。これは、国の示しております基本指針に沿うよう加えたものになります。 続いて68ページ、第5章 NO.102「学校給食の実施」の中に「中学校給食の無償化」について記載させていただきました。 続いて90ページになります。第7章「妊婦等包括相談支援事業」の表の下にございます「こども家庭センター型」の説明文について見直しをさせていただいております。 そのほかに、見やすく、読みやすくなるように修正した箇所がいくつかございます。表の中で文字が少し見切れているところを調整して見やすくさせていただいたり、例えば「不安や悩み 傾聴」となっていたところを「不安や悩みの傾聴」というふうに言葉を足したり、読点を付け加えたりするなど読みやすくしております。 あと、計画を策定する際には、都道府県の協議を経ることが子ども子育て支援法で決められておりまして、現在、大阪府にこの計画案を送付し、協議中というところでございます。協議の中で言葉の追加や記載の仕方について指示がありましたら、さらに修正があるかもしれませんので、申し添えておきます。 協議後には、計画の冒頭に「はじめに」として市長のことは加えさせていただき、巻末には計画策定に係る子ども子育て会議の委員名簿や開催状況などを資料として加えて、印刷製本作業にかかる予定としております。同時に計画の概要版も作成しまして、完成いたしましたら、委員の皆様へ送付させていただく予定としております。以上です。
谷向会長	ありがとうございました。それでは事務局のご説明をお聞きになって、ご質問やご意見等ございますでしょうか。
田中委員	最終案を送っていただいてありがとうございます。 5ページのところに人数が書かれてるんですけども、毎年のように、若年層の数字が減ってきているわけです。先ほど不妊治療の問題もご

	ざいましたけれども、子どもを産みたいなどと思っている人、子どもはどっちでもいいと思っている人、いろいろあると思います。私の知ってる仕事場の人でも、バンクへ預けているという人もいます。だから、結婚しても子どもはいるという人よりも、産みたいと思っている人に、できる限り援助するということは、柏原市としても必要ではないでしょうか。その辺の区分けをしていただいて、バンクに預けてするというふうなことも費用もいることですから、その辺の補填をしていくというのは必要ではないかなと思います。こんなふうに少子化を恐れる者としては感じているわけでございます。 そして、テーマから外れるのかもしれませんが、柏原市としていくつもいい項目を挙げていただいている。だけど、ここ2年とか3年とかいう短期の中で、重点項目はこういうところだ、こういうところを今回したいということをテーマに挙げていただいたらいいのかなと思います。市長さんも無投票で選出される、非常にみんなから期待を持たれている市ですから、もう少し重点目標をつけてみていただいて、そして子育て家庭に優しい市。そんなふうなことで、私も柏原市に将来どんなふうになってほしいのか。やっぱり道も広がってほしい。それからカメラも、防犯のために必要ではないかなと思います。 だから市として何を重点目標に掲げられるのかというのを挙げていただいて、子育ての会議を進めていただいたらありがたいかなと、こんなふうに思います。よろしくお願いします。
谷向会長	率直なご意見どうもありがとうございました。今の田中先生のご意見に対して、市のほうからはいかがでしょうか。
事務局	少子化対策につきましては、国のいろんなメニューがある中で、市ができることをやっていこうというふうな形で進めてはおります。 重点項目を挙げて具体的にとおっしゃってるんでしょうか。この計画に対するご意見、それから市の政策に対するご意見というふうにお伺いしますけども、計画の中に書き足すということではなくて、例えば3年の取組とか、短期間の取組というのは、また別に予算案の市政運営方針であるとか、その年度年度に重点的に取り組む施策というのは、別途市政運営のほうで示していくような形になると思います。
田中委員	私は子どもに優しいまちになってほしい。だから、最近いろんな犯罪があったときに、警察が防犯カメラで追及しますよね。もし柏原市でそういうことがあったときに、柏原市は、警察は追及していったほしい。そして事件を解決してほしい。子どもたちが安心して学校へ行けるような、そういうまちをつくってほしい。ということになってくると、おのずと

	何がいののかということは、これはいるなというふうなことで、そういうものをちょっとテーマが外れるのはわかりながら言ってるんですけどね。だから、さっき申し上げた卵子をバンクに預けるとかいうのも外れますか。
事務局	それが外れるとは思っていません。
田中委員	それならひとつ、それを考えていただいたらいいかなと思います。
西村委員	田中先生がおっしゃりたいのは、アピールポイントが何か漠然としてあるんですね、いつもこの会議が。だから何かアピールして、柏原市はこれだけ頑張ってるんだということを、何か探したいんですよね。そのご意見だと思います。例えば子どもの健康を守るとか、何かそういうめざすものが、確かにほしいような気はしますね。
小松副会長	今の補足かもしれませんが、例えばサンヒルを改装して、子育てのセンターにするみたいな話が、前回の会議で出たと思うんですけども、それをつくりましたと。ただそれをどうやってアピールしていくかというようなことは、多分今のお答えですと、これとはまた別の年度の予算としてどんなものを取って、例えば柏原のサンヒルのあれをアピールしていくとか、あとは公園の話もあったと思います。あれはいつできるのかわからないんですけど、あれについてこれからの予算の中で、どういうふうなアピールとか、施設の充実であるとかというのをつくっていくのかみたいなことが、一つ例えばですよ。その年度単位の予算ということでしたら、当てはまってくるかなと思うんですけども、この会議の趣旨から外れるかもしれませんが、その年度単位ということでお答えでしたら、例えばサンヒルについてはどんな予算組みとか、アピールをお考えなのかみたいなことは、お聞かせいただくことはできますか。
事務局	ご質問はサンヒルのアピールを今後どうしていくかということでしょうか。
小松副会長	アピールだけじゃなくてもいいんですけども。要するにできました、できたけど誰も知りません、誰も行きませんになってしまったら困ると思うんです。だからその利用を促進するための宣伝であるとか、行事を準備するとか、いつできるのかもちゃんと把握しておりませんが、そういうことの準備というのは、例えばどんなふうにされるのかなということです。広報であるとか、箱があっても何もできないので、そこでやる行事の準備とかいうのは、実際予算を取ってされていくんじゃないかなと思うんですけど、違いますか。
事務局	まず今は、サンヒルの施設の中身をこれから整理していくところにも

	なるので、その中でどういったことをするかということについても並行して、今後整備とともに決めていくところだと思います。その中身、行事が決まったりイベントの内容が決まりましたら、もちろん柏原市民の方に対しては、『広報かしわら』ですとか市ウェブサイト、あと最近はSNSを活用されている方も多いので、そういったものでお知らせします。あとは、子どもの室内遊び場を整備する予定にしておりますけれども、これは市外のお子さんも対象にしますので、そういった方にも広く使っていただけるようなアピール方法は検討していきたいと思っております。
小松副会長	具体的にそれでこんなのがいるから予算をこんなふうに取り上げましょうとか、さっきの単年度予算の話ですと、そういうふうにお答えいただいたので、そういうことにはまだ具体的に入っておられないわけですね。
事務局	そうですね。それは来年度予算かなと思っております。なので、8年度にオープンするので、来年度中に計画をしていくところかなというふうに思っています。8年度予算に反映させるということです。
小松副会長	ということは逆に言ったら、来年1年間で、そういういろんな準備をされていって、プランを立てていかれるということで理解したらいいですね。
事務局	そうですね。中で何の事業をするかというのは、それが年度当初からすべて決まってるわけではもちろんないと思うので、その都度対象者のターゲットを絞った形でアピールすることにもなると思います。もっと対外的に、そういうターゲットが広い世代にあるというものを、もちろん多世代交流施設になりますので、広いものについては、いろんな市が持っているツールを使って、アピールしていく、広報していくということになると思います。
小松副会長	ありがとうございます。
谷向会長	他にご意見いかがでしょうか。
藤井委員	なんとなく今までの議論を聞いていますと、今回こういうふう子育て支援計画ということでつくります。全体的に今、田中先生から言っていたように、やさしいまちづくりに向けてとか、何か大きいお題目に向けて一言あって、それに向けて交流を図ることだと思います。今の計画案ではちょっと見えないかなというのがあります。 例えば48ページに基本理念が書いてあります。そのあと理念の後にいきなり基本目標というのがあって、その間に、「子どもも大人もいきいき輝く都市の実現に向けて」とか、何か中間テーマというか、具体

	的な目標の大きいテーマみたいなのを書いてもらったら、この後がずっと細かいことが生きてくるんじゃないかなと思います。まずはそのテーマに向かって計画を策定しましたということで、いいものになるんじゃないかなというふうに思いました。最終的な到着点を決めて、物事を組み立てていくのが常套かなと思うんですけども、今まさに、次の計画に向けて、今こういう議論をやっていくべきかなと思います。
谷向会長	基本理念と目標の間の大きな目標。スローガンじゃないですけど、テーマというか、一応基本理念の下のところ、「子どもも大人もいきいきと輝く都市」とありますが、これまた大きすぎるので。
藤井委員	いや、これをもう少し噛み砕いて「向けて」みたいにしたら、目標になるんじゃないかなと。基本目標の上の大きなテーマになるんじゃないかなと思いました。例えばここに「向けて」とか付けてもらったら、向けてこういうことを考えてくれているんだなというふうになっていくんじゃないかなと。基本目標に向けて。「いきいきと輝く都市に向けて」にしておいたら、大きなテーマになると思います。人の取り方とか好みにもよると思うんですけど、そう感じたので感じたことを言わせてもらいました。
事務局	前後のつながりとか、あとの文章とのつながりも踏まえて検討させていただきます。
藤井委員	それでいいです。
谷向会長	いろいろとご意見ありがとうございます。 他によろしいでしょうか。では、副会長お願いします。
小松副会長	ありがとうございます。 令和の子育てはインスタとか、ネット情報も大事ですし、でもやっぱり最後、人と人との向かい合ったときに、そうやって言ってくれた、最後に肩を押されるという、そういう部分もあると思うんです。どっちも大事ですし、最後に肩をひとつ押すだけで、何かが変わるというようなことは、世の中たくさんあるのかなと思っております。そういうことを、これから丁寧に見つけ出していくような場に、この子育て会議がなるといいのかなというふうにも思ったりいたします。 大変ありがとうございました。 これで閉会ということにさせていただきたいと思います。 ありがとうございました。
谷向会長	ありがとうございます。